

近畿学校保健学会通信

No.39

昭和56年3月15日

第28回近畿学校保健学会事務局

〒640 和歌山市九番丁九

和歌山県立医科大学衛生学教室内

TEL 0734-31-2151(内線324)

第28回近畿学校保健学会の開催にあたって

第28回近畿学校保健学会会長 武 田 真太郎

日本列島を襲った記録的な寒波も去って、春の息吹きを感じさせる季節になりました。

昨夏の滋賀での第27回近畿学校保健学会総会で、今回は和歌山で開催されることに決まり、私が会長の大役をお受けすることになりました。昭和50年につづいての2度目の大役で、はや6年の歳月が経ったわけです。前回の学会で、学会の組織運営を再検討するための検討委員会の設置を提案させていただきましたが、その後慎重な検討が重ねられ、事務局の常設や恒久的な会員制度の導入など学会本来のあり方による組織とその運営を確立しようとする基本的成案がまとめられ、これをもとにした会則改正案が今回の総会で審議決定される予定であります。装いを新たにした近畿学校保健学会がその第1歩を踏み出す手順もようやく整えられてきました。このような画期的な総会をお世話するには力量不足ではありますが、近畿の学校保健関係者の皆様の御協力を得て、意義深い学会にしたいと念じておりますので、よろしく御支援賜りますようお願いいたします。

ところで、子どもたちの体力・気力の低下のみならず、自殺や他殺、校内暴力の多発、少女売春の増加など、80年代を迎えて、学校保健に寄せられる課題も変貌しつつあり、学会の重要度も増してきております。生命尊重が、戦後の教育の基本としてうたわれ、道徳教育でも、その第1に掲げられておりますが、お題目としてではなく、真に子どもたちの人間形成の営みのなかで定着し育っているとはいえないのではないかと危惧され、学校保健もその埒外ではないと思われず、学校保健が真に子どもたちのものであるためには、地味ではありますが、日々の学級指導のなかで、着実に進められることが必要でありましょう。こうした反省に立って、今回のシンポジウムは「今日の学校における健康生活を探る——学級の活動を踏まえて」をテーマに、和歌山大学の笠松勇次教授の司会で、教育現場で抱えている生々しい問題を俎上に、多くの会員の討論にもとづく将来展望をひきだしていただくことにしました。参加者ひとりひとりの積極的な討論によって、実り多いシンポジウムになれば幸いです。

和歌山と申しますと、交通に不便を感じられる方もおられるでしょうが、7月上旬は海や山に夏の陽光が輝く明るい季節です。会場は交通機関に最も近い所を確保しましたので、1人でも多くの会員が参加され、語り合い、論じ合って、この学会が学問の香り高く、しかも教育現場と直結したものになることを期待しております。

第27回近畿学校保健学会を終えて

第27回近畿学校保健学会会長 宮 田 英 子

昨年6月7日、午後から激しい風雨となった悪天候にもかかわらず、近畿各地から約300名の皆様の参加を待て、第27回近畿学校保健学会を開催できましたことを心から感謝いたしております。

第27回学会は会場にいろいろの制約がございましたために、皆様に御不便を御掛けいたしました。午前中は2会場に分かれて一般研究や実践報告が21題発表されました。午後は総会のあとで、「子どもの心身の健康づくり」と題して小児神経病理を多年にわたって御研究なさっている滋賀医科大学小児科教授島田司己先生の、中枢神経系を中心に胎児期からの発育発達の過程と、それに対応した積極的な健康づくりに関する特別講演を拝聴いたしました。引き続いて第一線で学校保健を担当なさっている諸先生を演者に「子どもの心身の健康づくりをめざして」のテーマでシンポジウムが持たれました。それぞれの立場を代表するシンポジストの発言は、この基本的目標に向かって努力する現場の問題提起から具体的方法論にわたっており、学校における現代っ子の健康づくりの実際は容易にできそうで困難な点の多いことを再認識せざるを得ませんでした。

他方、本学会総会において、白倉一夫（前滋賀県学校保健会会長）、山田一（滋賀県学校保健学会会長）の両先生が長年にわたって学校保健の発展のために尽くされた御功績により、満場一致で本学会名誉会員に推挙されました。今後、両先生にはますます御健康で御発展あらんことをお祈りいたしておりましたところ、白倉一夫先生には間もなく病床に臥されて昨年10月7日、肝臓がんのため、御逝去なさいました。つつしんで御冥福をお祈り申し上げます。総会では、また、第26回学会以後に発足いたしました本学会の会則改正草案委員会の協議結果が報告されました。本学会の発展をめざして新たな組織化のための会則改正の逐条審議が進められて一応の成果をあげ、次期学会へ引き継ぎましたことは同慶の至りに存じます。

最後に、第27回近畿学校保健学会に寄せられました全員皆様の御理解、幹事や評議員の諸先生方の御協力に厚く御礼申し上げます。さらに、本学会を御後援下さり御援助賜りました滋賀県ならびに大津市教育委員会、快く御賛助下さいました協賛者各位に対しまして深く感謝いたします。

なお、次期学会は和歌山市で県立和歌山医科大学教授、武田真太郎会長のもとで開催されます。引き続き皆様方の御声援によって次期学会がより盛会に、より発展することを願って御挨拶いたします。

第28回近畿学校保健学会開催要項

1. 会 長 和歌山県立医科大学教授 武 田 真太郎
2. 事 務 局 和歌山市九番丁九（〒640）
和歌山県立医科大学衛生学教室内
第28回近畿学校保健学会事務局（事務局長 竹内宏一助教授）
T E L 0734-31-2151
内線324
3. 開 催 期 日 昭和56年7月9日(木)
4. 会 場 和歌山市民会館
和歌山市伝法橋南ノ丁1番地（〒640）
（南海電鉄・和歌山市駅下車西側徒歩2、3分）
T E L 0734-32-1212
5. 内 容 総会、評議員会
一般口演
会長講演 「発育の地域差とその背景」
和歌山県立医科大学教授 武 田 真太郎
シンポジウム 「今日の学校における健康生活を探る
——学級の活動を踏まえて」
司会 和歌山大学教授 笠 松 勇 次
6. 学会参加申込み 学校保健に関心のある方は誰でも参加できます。学会当日会場で受付いたしますが、6月20日までに会費 1,000円（評議員は1,500円）及び参加資料代500円を前納して申込まれた方には学会口演予稿集の送付等の連絡をいたします。
7. 一般演題申込み 発表希望者は別紙申込み用紙に必要事項を記入の上、昭和56年5月10日までに学会事務局あて申込んで下さい。学会口演予稿集用のオフセット印刷原稿は、昭和56年6月10日（必着）までに提出して下さい。
原稿用紙は演題申込みに者に折返しお送りいたします。

第27回近畿学校保健学会決算報告

取 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	543,000	印 刷 費	466,000
一般 会 員 会 費 1000円× 195人		(学会通信№37、№38)	
評 議 員 会 費 1500円× 136人		(口演予稿集、案内状他)	
参加費(資料代) 500円× 288人		謝 金	277,500
奨 励 金	380,000	(講師・座長・学生アルバイト他)	
滋賀県教育委員会 100,000		会 場 費	157,000
大津市教育委員会 100,000		(会場借用料、会場設営費)	
滋賀県医師会 100,000		会 議 費	198,500
滋賀県歯科医師会 50,000		(幹事会、評議員会)	
滋賀県薬剤師会 30,000		(会則改正草案委員会他)	
雑 収 入	420,000	通 信 費	149,500
広告掲載料 他		(郵便料、電話料他)	
		雑 費	94,500
		(文具、コピー代他)	
合 計	1,343,000	合 計	1,343,000

第28回近畿学校保健学会幹事名簿

(昭和56年2月1日現在)

◇滋賀県

佐々木 武 史(滋賀医大) 林 正(滋賀大・教育) 宮 田 英 子(滋賀大・教育)

◇京都府

北 村 李 軒(京大・保健管理センター) 山 岡 誠 一(京都教育大) 米 田 幸 雄(京都教育大)

◇大阪府

今 井 英 夫(大阪教育大) 大 山 良 徳(大阪大・教養) 上 林 久 雄(大阪教育大)

後 藤 英 二(大阪教育大) 山 口 正 民(大阪府医師会)

◇奈良県

橘 重 美(天理大・体育) 出 口 庄 佑(奈良女子大) 中牟田 正 幸(奈良教育大)

◇兵庫県

佐 守 信 男 塚 本 利 之(兵庫医大) 美 崎 教 正(神戸大・教養)

南 哲(神戸大・教育) 山 城 正 之(神戸大・教育) 横 尾 能 範(神戸大・教育)

◇和歌山県

井 辺 八 郎(県学校保健主事研究会)	池 端 与 美子(和歌山市教委)	櫻 田 さよ子(県立和歌山商業高)
岩 田 弘 敏(和歌山医大)	岩 畑 嘉 樹(和歌山市薬剤師会)	上 野 充 弘(県学校保健主事研究会)
宇 野 修 司(県学校医会)	海 野 正 起(県 教 委)	笠 松 勇 次(和歌山大)
川 口 和 恵(田 中 小)	川 口 英 雄(和歌山市歯科医師会)	川 口 吉 雄(県学校歯科医会)
川 崎 武 彦(県歯科医師会)	黒 田 健 雄(県学校医会)	小 谷 諒 夫(県 教 委)
島 新 一(和歌山市医師会)	庄 本 正 男(高野口保健所)	園 山 和 夫(県 教 委)
中 俊 博(和歌山大学)	中 尾 昌 雄(和歌山市学校保健会)	野 田 康 夫(県学校保健主事研究会)
則 岡 広 昭(和歌山市学校薬剤師会)	藤 井 知 子(県養護教育研究会)	古 谷 孝 雄(和歌山市教委)
松 岡 勇 二(和歌山大学)	松 沢 勉(和歌山市教委)	山 口 右 二(県学校保健研究会)
吉 田 稯(県学校薬剤師会)	渡 辺 美智子(県養護教育研究会)	和 田 寿 子(和歌山市養護教育研究会)

第 28 回近畿学校保健学会演題申込み用紙

(裏面必読)

演 題 名	
発表者氏名、所属（連名で発表の場合は演者に○印）	
連絡先	〒 TEL ()
住 所	
氏 名	
発表要旨（100字ぐらいに）	

申込用紙不足の場合は、これと同じ様式のものをを用いて下さい。

き り と り 線

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

払 込 通 知 票									
口座番号	※	大 阪		十	万	千	百	十	番
				8	4	3	1	8	
加入者名	第28回近畿学校保健学会								
金 額	※	億	千	百	十	万	千	百	十
払込人住所氏名	※（郵便番号）								
備 考			受付局日附印						

(郵 政 省)

文字は正確明りように、数字はアラビア数字を使って書きください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証明してください。
各票の記載事項にまちがいのないことを確かめください。

払 込 票									
口座番号	※	大 阪		十	万	千	百	十	番
				8	4	3	1	8	
加入者名	第28回近畿学校保健学会								
金 額	※	億	千	百	十	万	千	百	十
払込人住所氏名	※								
料 金	払込み	特 殊	受付局日附印						
	円	円							
備 考									

(郵 政 省)

1. 口演内容は学校保健の立場に立脚し、具体的な資料にもとづいた研究発表を希望します。
2. 演者は近畿地区に在住または勤務する方に限ります。連名で発表の共同研究者は近畿地区外の方でもかまいません。発表者は原則として会費を前納して下さい。
3. 演題申込みはこの用紙（または同様式）に必要事項を記入し、昭和56年5月10日までに学会事務局あてお送り下さい。折返し予稿集作成用の所定の原稿用紙をお送りします。6月10日までに口演内容の抄録（表題、図、表を含めて約1,400字）を黒インク書きで提出して下さい。オフセット印刷に致します。
4. 発表時間は申込み演題数によって決定いたしますが、討論を含めて1題10分程度を予定しています。

-----き-----り-----と-----り-----線-----

第28回近畿学校保健学会参加申込みについて

1. 学会は学校保健に関心のある方は誰でも参加できます。
2. 近畿学校保健学会は近畿地区6府県の輪番で毎年1回開催されます。
会員として入会されると、引続き「学会通信」をお送り致します。
3. 学会当日会場入口で、会員の受付を致しますが、6月20日までに会費¥1,000円（評議員¥1,500円）及び学会参加資料代¥500円前納の方には、6月末日までに学会口演予稿集をお送り致します。
4. 学会当日参加されず、学会口演予稿集のみを希望される方は、お送り致しますので郵送料を含めて¥750円を前納ください。
5. 申込みは右記通信欄に必要事項をご記入のうえご送金下さい。

通 信 欄	
第28回近畿学校保健学会参加申込書 (該当する項目の番号を○で囲んで下さい)	
◇7月9日(土)の学会に	
1. 参加する	2. 未定 3. 不参加
◇今後も引き続き会員として	
1. 希望する	2. 未定 3. 否
◇会費及び参加料等の納入	
1. 一般会員	¥1,000
2. 評議員	¥1,500
3. 学会参加資料代	¥500
4. 予稿集郵送料共	¥750
(不参加の方のみ)	
合計	
¥	
会員氏名	
住所(〒)	
所属(具体的に)	
(府・県)	
職 種	